

1. 活動の概要

6月9日(火)午前9時前、津和野町立木部小学校5・6年生の、益田市内の遺跡(古墳)見学をするという企画に津和野町立津和野小学校6年生が加わり、児童17名、教員2名、津和野町教育委員会職員2名、島根県埋蔵文化財調査センター職員1名の計22名で津和野町保有のスクールバスに乗車して、益田市乙吉町小丸山古墳(後期古墳、復元整備されている)及び益田市白上町白上古墳(後期古墳、横穴式石室のみ残る)を巡る古墳見学に出発しました。

小丸山古墳では、復元整備された60m級の前方後円墳を自分の足で歩いて古墳の形を実感してもらい、白上古墳では、横穴式石室という古墳の埋葬施設を見て、これも実感してもらうことを目的の一つとしていました。

午前10時過ぎ、小丸山古墳到着、復元整備された古墳に登頂し、古墳そのものや周辺の遺跡について解説しました。ただ、周辺の遺跡や古墳のパネル等小丸山古墳以外の古墳や遺跡の資料がなく、学習への助けが足りなかったようです。その後、小丸山古墳とその周辺を散策し、白上古墳に向かいました。

午前11時過ぎ、白上古墳到着。児童それぞれが横穴式石室を見学しました。ここでは、津和野町教育委員会職員が、解説図や写真パネルを使用して古墳の構造や津和野町内の古墳について解説しました。ここで、町内では2か所しか古墳が知られておらず、ほかの地域に比べて少ないことが紹介されました。また、古墳の候補地を何か所か発掘調査する機会があり、調査の結果、古墳発見が有望視される地域もあるが、未だ、新発見に至っていないことも紹介されました。

正午過ぎ、津和野町立木部小学校到着。津和野小学校の児童と教員を残して、木部小学校の児童と教員ほかは下車し、全員無事で帰着し、解散しました。

2. 活動の様子



益田市乙吉町の小丸山古墳後円部にて、周辺の遺跡の説明を聞いているところ



益田市白上町の白上古墳の横穴式石室を見学しているところ

3. 子ども塾を終えて

児童の皆さんから…

- 木部(校区内)の古墳を見てみたい。
- ほかの種類古墳を見て勉強したい。
- 出雲地方の古墳も調べてみたい。
- なんで古墳を作るの?王たちの力を見せるのは分かるけど、莫大な費用をかけて作る必要はないと思います。普通に掘って、埋めてあげて、きちんと奉納すれば良いと思います。なんとなく、理解ができません。
- 古墳を探してみたい。
- 日本にどれくらい見つかった古墳があるのか知りたい。もっと古墳のことが知りたいです。
- 日本で一番大きい古墳を見てみたい。
- 古墳を掘ってみたい。

担任の先生から…

- 小丸山古墳(益田市乙吉町)周辺の古墳についても解説されたが、スクモ塚古墳などの写真を使っている説明があると、子どもたちのイメージも膨らみ、さらに興味も高まったように思う。
- 津和野町教育委員会からも2名(宮田健一文化財係長、伊藤悟郎主任主事)参加いただき町内のことについて話をしてもらったのが良かったです。

島根県埋蔵文化財調査センターの担当者から…

復元整備された小丸山古墳の外観や大きさ形を実感してもらえたのは良かったと思いますが、周辺の古墳や遺跡の資料の提示(パネル、写真)など十分とは言えず、反省しています。

児童の皆さんは、小丸山古墳では、古墳の形や大きさ、立地を自分の目で見て歩いて感じていました。また、白上古墳では、古墳の埋葬施設である横穴式石室の様子を観察することができました。そして、津和野町教育委員会職員の方の説明なども聞いて、「さて、なぜ自分たちの住む津和野町には古墳が少ないのか」という難問に挑戦していました。

「森林が多く、古墳を作る好適地が少なかったのではないか」というような、古墳の立地や自然環境に着目した意見、「人口が少なかったから」など社会的、経済的理由に着目した意見、「権力者がいなかったから」など政治的理由に着目した意見、「古墳はまだほかにもあるのだが、未だ見つからない」という意見など、難問に対する答えには多様な意見があったようです。

バス移動で体調を崩す児童もおらず、学校にほぼ予定どおりに帰り着いたことは非常に良かったと思います。安全運転でバスを運行してくれた運転手さんに感謝します。

このような企画は、その対象となる整備された史跡、そして、その価値を認め、保護してきた益田市の地域住民の方々、担当の益田市教育委員会の方々など、遺跡の保護に関わる様々な人々の努力があればこそ実現できたものです。感謝します。